

五十二年十一月 全抑協結成に参画し、組織強化に尽力する

現在 会社定年後はシルバー人材センター会員として地域社会で活躍されています。

(熊本県 池上 俊邦)

私のシベリア抑留体験記

熊本県 井上 明

昭和二十(一九四五)年八月十五日、旧満州国錦州省の錦県と言う地で終戦を迎え、翌十六日武装解除となり、奉天省海城に集結し第十中隊に編成され、ソ連軍の指揮下になり抑留生活に入る。

食糧も半分以下になったが、何とか過ごす。昭和二十年十月、貨車に押し込められ、行く先も知らされず出発した。歩哨に聞いても「ダモイ」と言うだけ。途中、貨車の隙間から外を見ていたら

ハイラルとわかり、ソ連に連れて行かれると思った。

一週間余りかかり着いた所は「チタ」と言う小さな街の駅でした。一夜明かし、翌朝、途中何か所か収容所があったが山奥へと連れて行かれ、着いた所は白樺林で何も無い。雪だけが腰まである。白樺の枝を切り三角に組み、個人携帯の天幕をつなぎ合わせて屋根を張り小屋を造り、中央に溝を掘り火を焚き一夜を明かす。翌日より木を切り皮をむき積み重ねて家を建て、落ちついたら一カ月あまりで一番奥へ移動し、本格的に大木の伐採作業に入る。三人一組で、二メートルくらいの鋸一個、斧一個、クサビ二個で、木の周り六メートルもある大木を切る仕事で、大変体力の要る作業です。一人三立方メートルで三人で九立方メートル。できない場合、後片づけで夜中まで残業させられます。また、時には歩哨と村人と手を組み、歩哨が発砲して非常呼集をかけ、皆が集まった間に盗みをするんです。

食糧は、道路が悪いので途中で盗まれ半分以下になることがある。食事は、朝夕は米のとぎ水の白く濁ったくらいのにキャベツの小さな葉が二、三枚。昼は百グラムくらいのパンに小魚半切れ。時には松の渋皮を剥いで食べ、飢えを凌ぎました。

三カ月もすると栄養失調になりました。五カ月、六カ月となると弱い老人が一人二人と倒れるようになりました。

昭和二十一年五月、山を下り、街や農場または魚缶詰工場と仕事が変わり元気になりました。建設作業の手伝い。ロシア人とも知り合いができた。食事も山野草、バレイシヨ、川の魚、カニも取り、何不自由なく働けるようになりました。昭和二十一年は無事過ごし、昭和二十二年十二月、建設作業中、戦友が使っていた金棒が凍っていたため突き滑らせ、それが私の左足首に刺さり一步も動けなくなり、そのまま車にて病院に連れて行かれ無事治療ができました。もし事故が山でだったらケガ

が凍傷になり切断ということになったろう、街でよかったと思いました。三カ月の松葉杖生活でよくなり歩けるようになったが、走ることはできない。その後三カ月、病院の雑役をして過ごす。

五月中旬、突然帰国命令が出て、翌日ナホトカに集結のため出発した。各地方から集まり、一週間ほど船待ちして病院船「山澄丸」に乗船、一路舞鶴港へ。海は静かな風でした。

昭和二十三年五月二十八日、上陸。入浴して新しい服に着替え、身体検査や帰国の手続、調査等いろいろあった。二十九日は休み。各県ごとに編成され、三十日、各県の故郷へと出発しました。

熊本駅に親族、親兄弟の出迎えを受け、郷里へと向かう。町民の方、友人、村人の出迎えを受ける。帰って仏前に帰国の報告をして、皆と語り合う。

一夜明けて六月一日、熊本市の引揚援護局へ行き手続を終え、足のケガを申し出たら「保証人がいないから」と言われました。戦地で負傷し病院

から帰国するのも、現場でケガして病院から帰るのも同じだと思います。今も足首、ひざ、腰と痛み、歩くのもままなりません。何とかよろしくお願ひいたします。

シベリア抑留の思い出

熊本県 古家 次男

私の家は貧しい農家で、父は熊本県山鹿市三岳の出身、母は同市平小城の出身。結婚して長男が生まれると家計もますます苦しくなり、姑との仲もよくなかったようで、福岡県大牟田市へ出稼ぎに出た。大牟田市加納町の借家に住みつき、父は三池製作所に就職しました。

大正十二（一九二三）年十月三十一日、ここで私は古家の二男として生まれました。（その後、弟四人が生まれ、男ばかりの六人兄弟、一家八人の大家族となる）

私は昭和十一（一九三六）年、大牟田市第九尋常小学校を卒業し、昭和十三年、大牟田市三川高等小学校を卒業する。同年四月、日本発送電株式会社に入社。ボイラーの補修作業員として勤務。一年で退職（友達が福岡市堅粕で電気溶接の工場にいたので、そこにお世話になる）。電気溶接の見習工として二年間勉強する。

昭和十七年十月、再度日本発送電に溶接工として工作係に入社する。会社には当時青年学校があり、勤務しながらの通学だった。軍事教練が主であった。

十代の青春もつかの間に過ぎ去り、二十歳の徴兵検査の年齢になっていた。

昭和十八年に大牟田市の市民会館で行われた徴兵検査に臨んだ。市民会館は若者でいっぱいである。検査の結果は「甲種」「第一乙種」「丙種」などにランクされ、兵役に適さない者は「丁種」とされる。甲種合格は男の名誉であり、あこがれであった。順番が来て徴兵官の前へ行った。すると